

ICCAE 2001年度オープンセミナー開催

場所：大学院生命農学研究科 大会議室

第1回オープンセミナー

日時：5月22日(火) 16:30~18:00

演題：熱帯植林資源の利用の現状と将来
—インドからの視点—

講師：バート博士 (Dr. K.M. Bhat; インド・ケララ州
森林科学研究所木材科学部長)

ICCAEの客員研究員として滞在中のバート博士が、熱帯植林地から生産される木在資源の利用について、インドに重点をおいて話された。現在の重要な研

究課題として、小規模・小径木の樹木生産に適応した木材技術の開発と技術者訓練方法の確立があげられる、と強調された。大



学院生や学生、教官ら28名が参加し、インドの森林所有形態についてなど、熱心な質疑が行われた。

第2回オープンセミナー

日時：7月10日(火) 16:30~18:00

演題：発展途上国の木材科学研究・養成ネットワークづくりの新たな展望

講師：バート博士 (Dr. K.M. Bhat; インド・ケララ州
森林科学研究所木材科学部長)

第1回に引き続きバート博士が、発展途上国の木材科学研究や同分野における専門家養成のため

のネットワークづくりについて、講演された。地域のネットワーク形成の成功例として、FORSPA (アジア-パシフィック版森林研究支援プログラム) とINBAR (国際竹・籐ネットワーク) の2つが紹介され、ICCAEが効果的な訓練ネットワークを形成する中核の役割を果たすべきだという、新たな展望が述べられた。大学院生や学生、教官を中心に24名が参加した。

客員研究員紹介

稔り豊かなICCAEでの3ヶ月

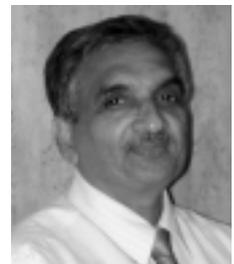
インド・ケララ州森林科学研究所木材科学部長 (Ph.D) K.M.バート
(任期：2001年4月20日~7月19日)

私の名古屋大学ICCAE滞在の3ヶ月間は、日本の木材科学分野の研究者たちと親しく意見交換する機会が持てたこと、横浜のITTO (世界木材貿易機構) を訪問して東南アジア諸国の研究機関とのネットワーク強化の糸口がつかめたこと、ICCAEスタッフをはじめ多くの友人たちから、日本の伝統的な温かいもてなしを受けて心くつろいだことなど、実に稔り豊かな時間でした。

私の研究課題は「木材科学分野における発展途上国の専門家育成用プログラムの開発」で、木材科学分野における人づくり国際教育協力を発展させるため、インドと日本の大学/試験研究機関間でのコンソーシアム形成に関して、ICCAEが果たすべき役割について

検討することを目的とするものでした。幸い、私はこの課題に沿った研究成果を研究レポートとして纏め上げることができ、ホッとしています。

ICCAEが近い将来、私の提案したインド-日本の2国間訓練計画を発展させ、木材科学分野で途上国向け専門家養成のネットワークを開発する取り組みに成功されるよう、期待しています。



略歴 1950年生まれ。1972年マイソール大学大学院修了(植物学修士)。1979~1981年フィンランド国立ヘルシンキ大学大学院農林学研究所に学び、博士学位取得。1981年~ケララ州森林研究所研究員。1996年~現職。2000年8月国際森林科学研究機関連合(IUFRO)世界大会で学術賞を受賞。2000年~IUFRO第5部会(木材科学分野)副部会長。

ナミビア大学農学部講師 Ms. N. パトリシャ ペトルス
(任期：2001年7月24日~10月31日)

本センターでは、国際協力事業団(JICA)と協力して、「ナミビア大学農学部強化支援計画」の立案を行ってきた。この取り組みは、既にJICAとナミビア大学農学部間における協力の進め方に関する協定調印(本年8月)と、それに基づく本年度からの実施(開始:2002年1月予定)までに至っている。

これを踏まえて、本センターでは、ナミビア大学農学部のカウンターパートの一人であるペトルス氏(Ms. Petrus)を、客員教授のポストを利用して招聘した。ペトルス氏の専門分野は家禽育種学であり、3ヶ月間の滞在

期間中に「ナミビアの在来鶏の遺伝分析とそれを利用した育種」に関する研究計画を立案し、協力計画期間(2年間)中の実施を予定している。そのため、北海道大学、(財)日本生物科学研究所、(独)農業生物資源研究所等での研修・見学を行い、日本国内の専門家との研究支援ネットワーク作りを進めている。



(武田 記)

略歴 1964年生まれ。1993年ナイジェリア国ニユッカ大学卒業(農学士)。1997年~1998年フランス国際交流センター獣医部門卒業(理学修士)。1994~1998年ナミビア国農業省農業普及官。1999年~現職